

調査の概要

- 調査実施日 平成29年1月12日（木）
- 調査の目的
 - ◇大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
 - ◇市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
 - ◇学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
 - ◇生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。
- 調査内容
 - ◆学力に関する調査 1年生：国語・数学・英語の3教科 2年生：国語・社会・数学・理科・英語の5教科
 - ◆学習状況に関する調査（各教科2問の生徒アンケート）
- 調査参加者 中学1年生：66,146人 2年生 67,056人（本市参加者 1年生：663人 2年生：657人）

※教科や出題範囲が限られていることから、中学生チャレンジテストにより測定できるのは学力の特定の一部です。

調査結果について

【学年別・教科別平均得点】

2年生理科A以外の全ての教科において、府全体の平均得点を下回っています。府との差が特に大きかったのは、2年生英語のマイナス4.9点でした。

【得点分布グラフ】

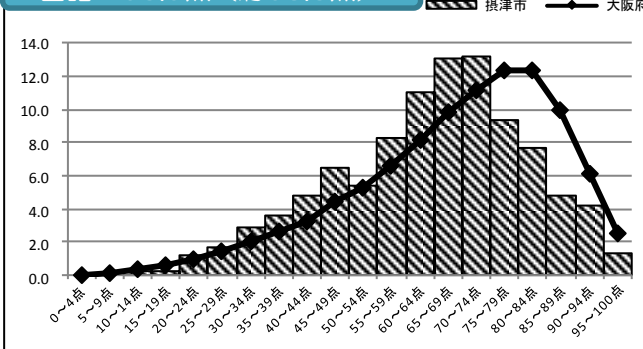
学力の分布の形は府とほぼ同じ傾向にあります。1年生の国語で顕著に表れているように、学力上位層が府全体に比べて少ないことが課題です。

【教科別対府比経年比較】

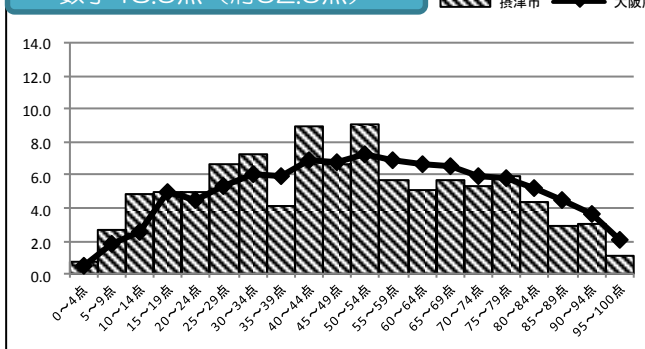
府全体の平均点を1としたときの本市全体の平均点を表しています。1年生の英語以外のすべての教科で昨年度の結果を下回りました。同一集団で見ると、今年度2年生の国語は、平成27年度1年生であった時のポイントが0.94であったのに対し、1年後には0.96と府の平均との差を縮めたものの、数学・英語については差が広がりました。

中1得点分布グラフ・教科別平均点

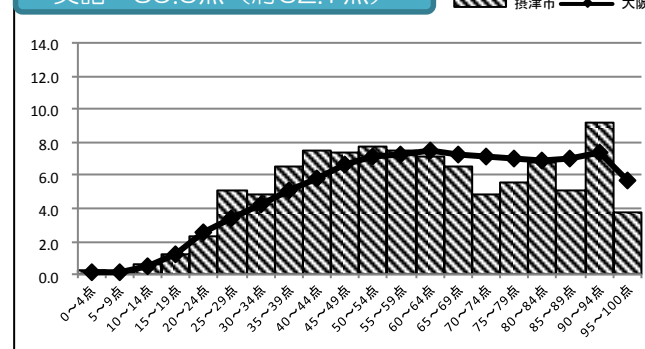
国語 63.9点（府68.3点）



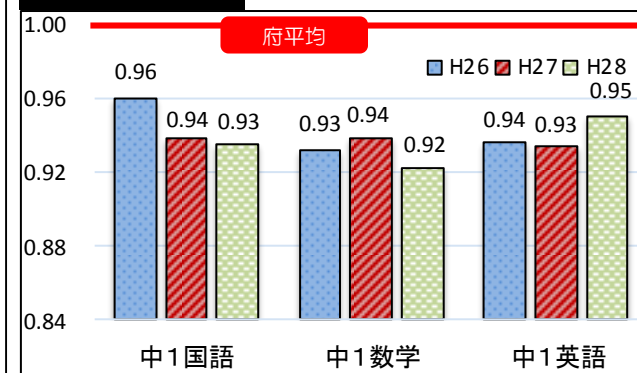
数学 48.5点（府52.5点）



英語 59.6点（府62.7点）

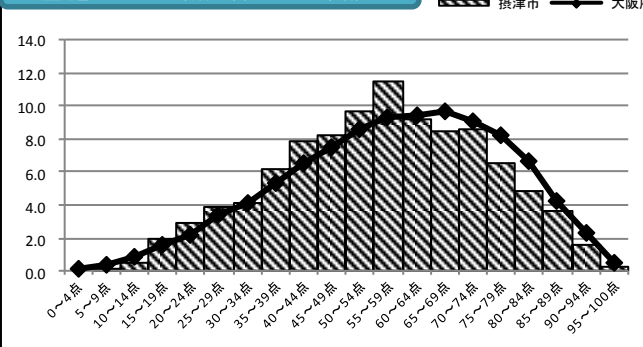


対府比経年比較 ※問題が共通している3教科のみ記載

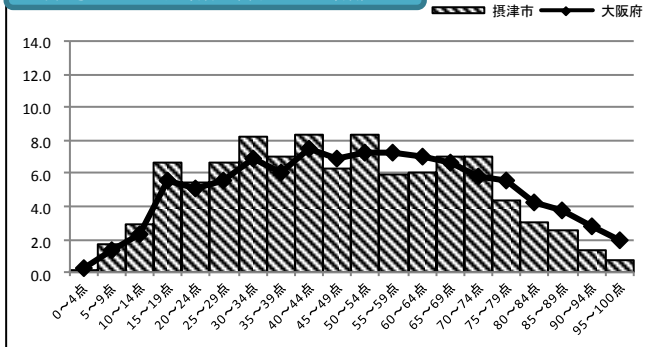


中2得点分布グラフ・教科別平均点

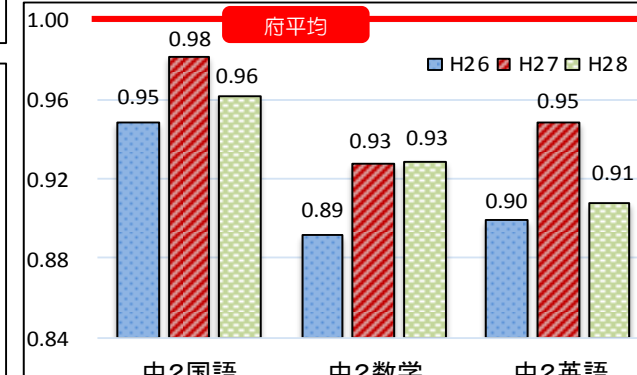
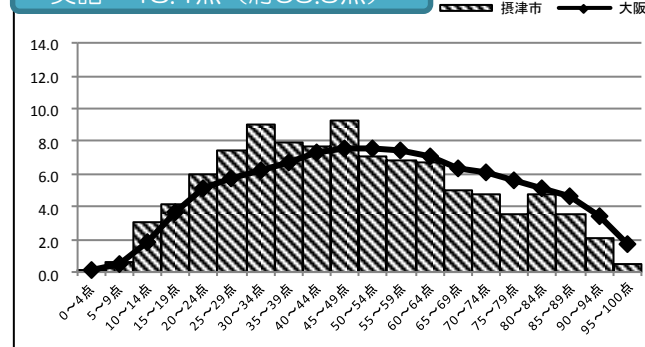
国語 55.9点（府58.1点）



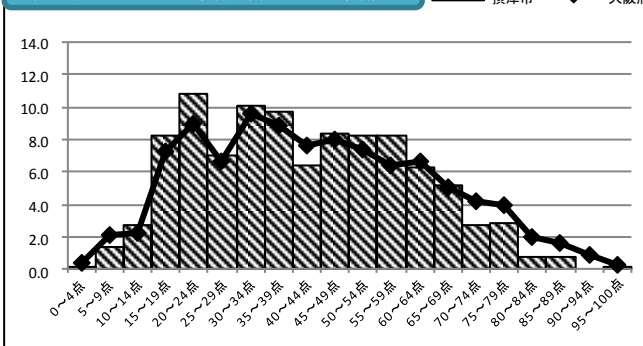
数学 47.6点（府51.3点）



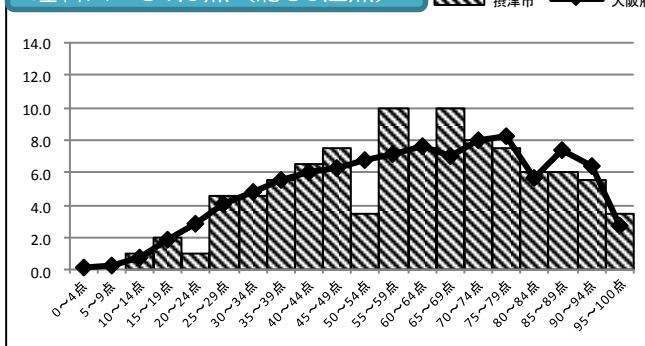
英語 48.4点（府53.3点）



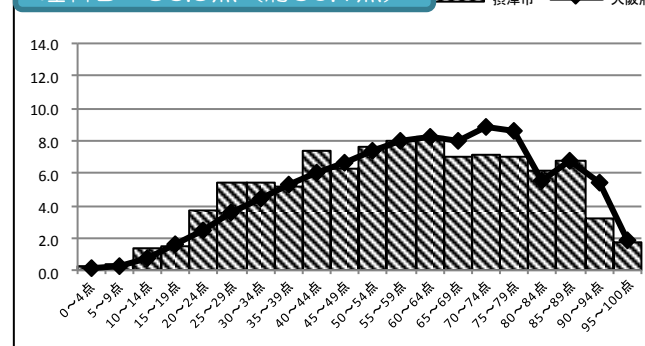
社会A 41.4点（府43.8点）



理科A 61.0点（府60.2点）



理科B 56.9点（府60.1点）



社会と理科は学習進度等に応じて、A問題とB問題のうちどちらか一方を学校が選択します。本市では、今年度の社会では全校がA問題を選択しました。

今後に向けて

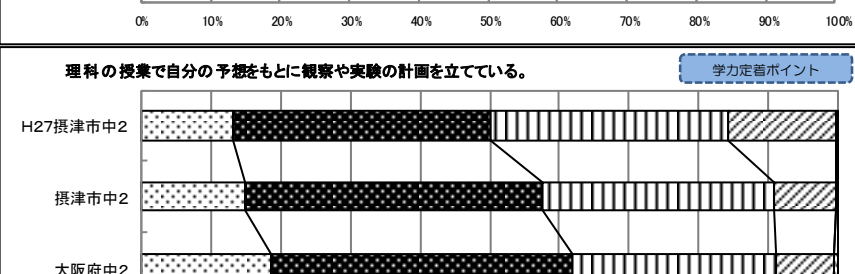
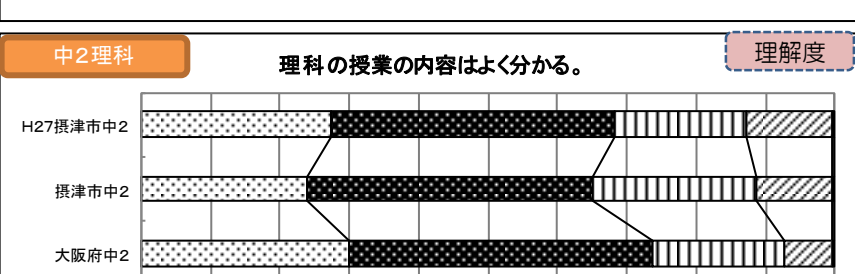
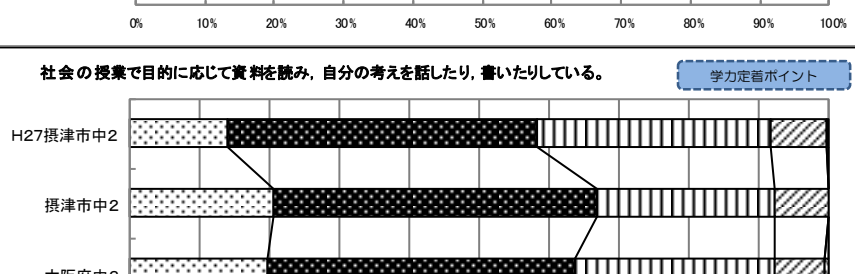
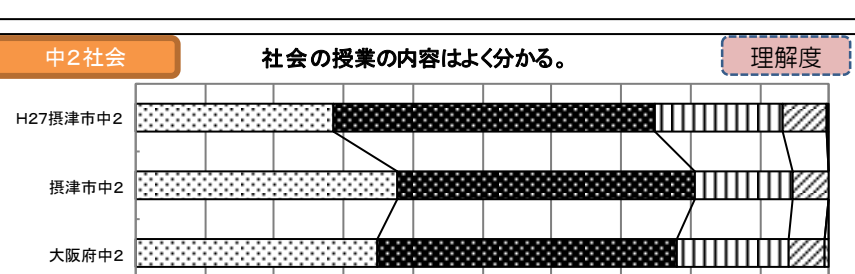
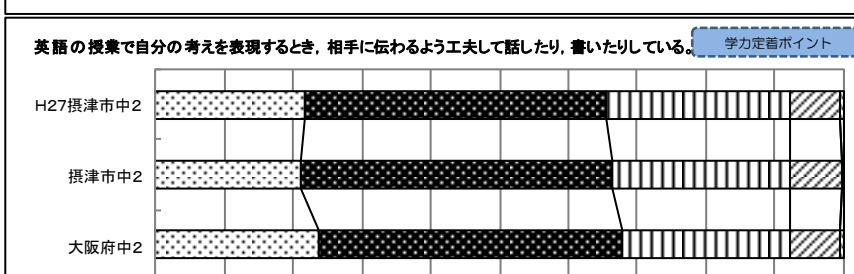
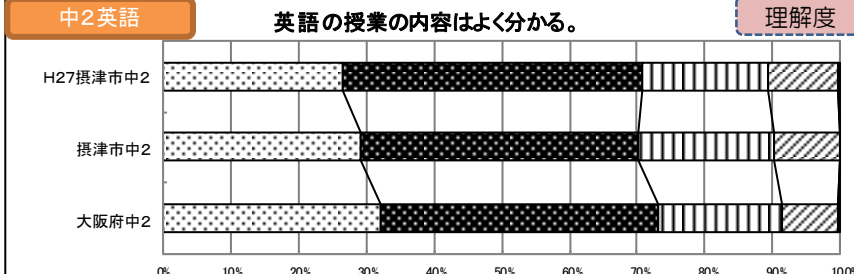
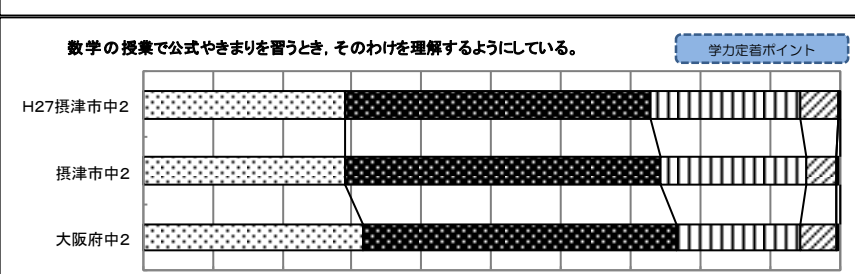
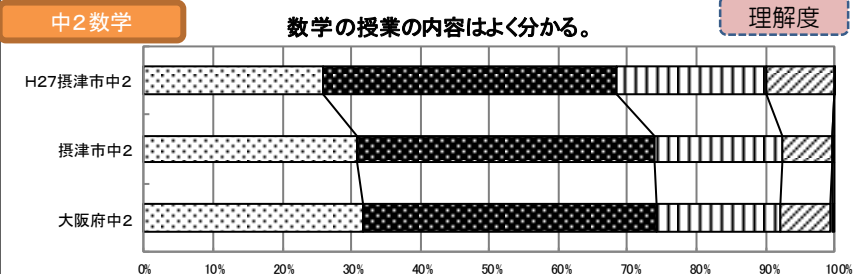
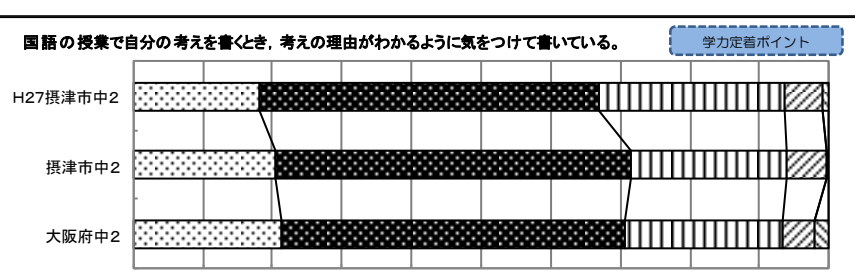
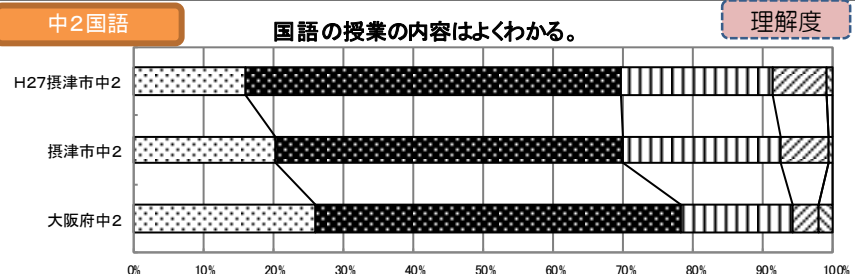
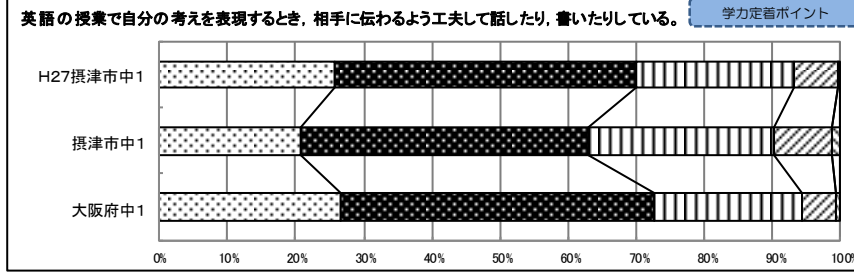
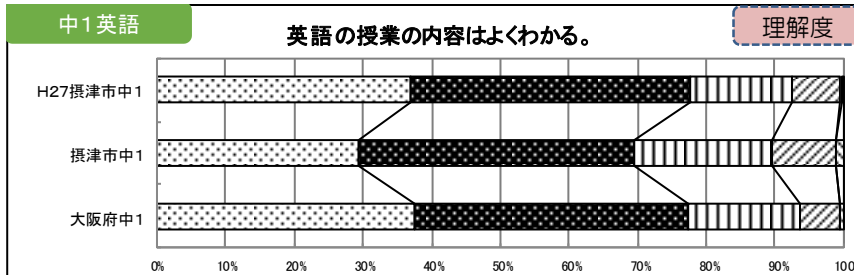
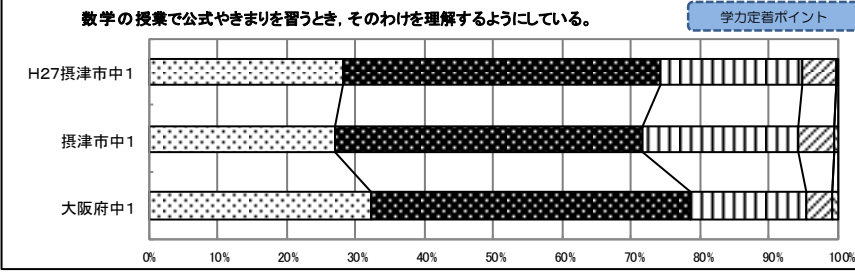
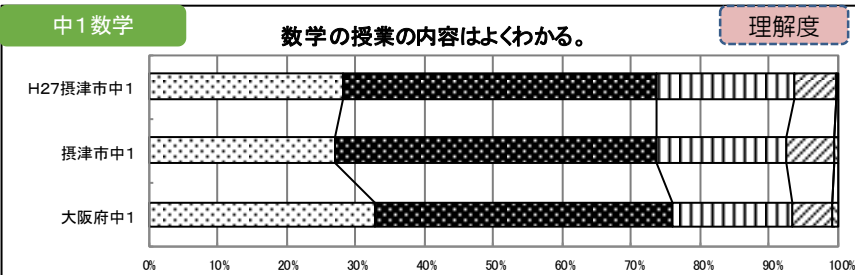
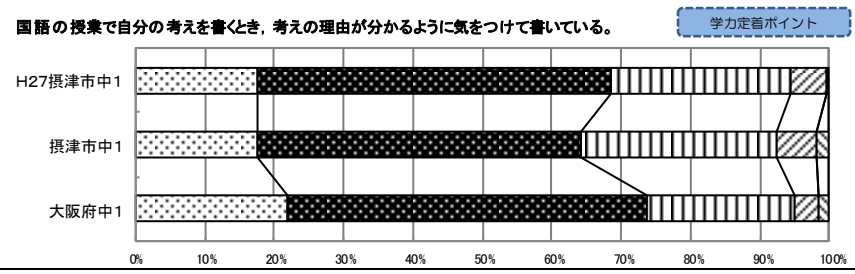
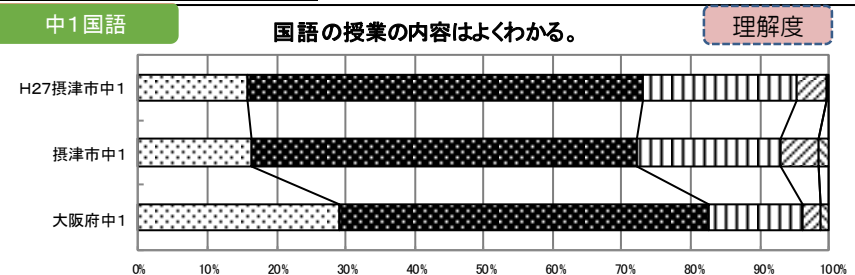
教育委員会では、調査結果を以下の取組みに生かすとともに、今年度新たに策定した「摂津の学校教育スタンダード」に沿った各学校の取組みを支援します。

- 市全体の児童生徒の学力状況について分析し、各小中学校へ課題の周知を行うとともに、各校の「学力向上プラン」の進捗状況を確認し、指導・助言と支援を行います。
- 教員の授業力向上のための研修を充実させ、組織的・継続的に人材育成を行います。
- これまでの教育委員会や学校の取組みの効果検証を行い、児童生徒に確かな学力を育むためのより良い教育施策を行います。

学力の定着においては、家庭での望ましい生活習慣と学習習慣を確立することが必要です。今後も、保護者や地域の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

生徒アンケート結果より

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



調査結果について

【授業の内容の理解度に関する項目】
 ○1年生では、全ての教科で肯定的回答の割合が、大阪府全体や平成27年度の1年生の割合を下回っています。
 ○2年生では、社会では肯定的回答の割合が、大阪府全体の割合を上回りました。また、平成27年度2年生と比較すると理科以外の4教科で肯定的回答の割合がほぼ同じか、やや高い結果でした。

【教科の学力定着のためのポイントに関する項目】
 ○2年生では、全ての教科で肯定的回答の割合が平成27年度2年生の結果を上回るとともに、社会と国語で大阪府全体の結果を上回りました。各教科の学力定着のために授業中に心がけるべきことへの意識が高まっています。

教育委員会としましては、今後、各校での授業改善の取り組みの支援をますます進めるとともに、中学1年生段階での学習のつまづきを解消し、学習習慣を確立させるための取り組みを進めてまいります。

肯定的回答の割合とは、選択肢のうちの「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と回答した合計を表します。